

【一】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合上、一部表記を改めたところがあります。

旅の人や、町へゆく人は、いんたのむねの下の椿の木に、賽銭箱のようなものが吊されてあるのを見ました。それには札がついていて、こう書いてありました。

「ここに井戸を掘って旅の人にのんでもらおうと思います。志のある方は一銭でも五厘でも喜捨して下さい」

これは海蔵さんのしわざでありました。それがしように、それから五、六日のち、海蔵さんは、椿の木に向かいあつた崖の上にはらばいになつて、えにしだの下から首つたまだけ出し、人々の喜捨のしように見ていました。

1 半田の町の方からお婆さんがひとり、乳母車を押してきました。花を売って帰るところでしょう。お婆さんは箱に目をとめて、しばらく札をながめていました。しかし、お婆さんは字を読んだのではなかったのです。なぜなら、こんなひとりごとをいいました。

「地蔵さんも何もないのに、なんでこんなとこに賽銭箱があるのじゃろ」そしてお婆さんは行つてしまいました。

海蔵さんは、右手にのせていたあごを、左手にのせかえました。

こんどは村の方から、しりはしよりした、がにまたのお爺さんがやつて来ました。

「庄平さんのじいさんだ。あの爺さんは昔の人間でも、字が読めるはずだ」と、海蔵さんはつぶやきました。お爺さんは箱に眼をとめました。そして「なににな」といいながら、腰をのぼして札を読みはじめました。読んでしまうと、「なるほど、ふふうん、なるほど」と、ひどく感心しました。そして、懐の中をさぐりだしたので、これは喜捨してくれるなど思っていると、とり出したのは古くさい蓑入れでした。お爺さんは椿の根元でいっぶくすつて行つてしまいました。

海蔵さんは起きあがって、椿の木の方へすべりおりました。

箱を手にとつて、ふつてみました。何の手ごたえもないのです。

がっかりして海蔵さんは、ふうツと、といきもらしました。

「けつきよく、ひとは頼りにならんとわかった。」
2 こうなつたら、おれひとりの力でやりとげるのだ」といいながら、海蔵さんは、いんたのむねをのぼつて行きました。

(中略)

それから二年たちました。

牛が葉をたべてしまった椿にも、花が三つ四つ咲いたじぶんの或る日、海蔵さんは半田の町に住んでいる地主の家へやっていきました。

海蔵さんは、もう二月月ほどまえから、たびたびこの家へ来たのでした。井戸を掘るお金はだいたいできたのですが、いざとなつて地主が、そこに井戸を掘ることをしようしてくれないので、何度も頼みに来たのでした。その地主というのは、牛を椿につないだ利助さんを、3 叱つたあの老人だったのです。

海蔵さんが門をはいったとき、家の中から、ひえつというひどいしゃっくりの音がきこえて来ました。

たずねて見ると、一昨日から地主の老人は、しゃっくりがとまらないので、すっかり体がよわつて、床についているということでした。それで、海蔵さんはお見舞いに枕もとまできました。

老人は、ふとんを波うたせて、しゃっくりをしていました。そして、海蔵さんの顔を見ると、

「いや、何度お前が頼みにきても、わしは井戸を掘らせん。しゃっくりがもうあと一日つづくと、わしが死ぬそうだが、死んでもそいつは許さぬ」と、がんこにいいました。

海蔵さんは、こんな死にかかった人と争つてもしかたがないと思って、しゃっくりにきくおまじないは、茶わんに箸を一本のせておいて、ひといきに水をのんでしまうことだと教えてやりました。

門を出ようとすると、老人の息子さんが、海蔵さんのあとを追つてきて、

「うちの親父は、がんこでしょうがないのですよ。そのうち、私の代になりますから、そしたら私があなたの井戸を掘ることを承知してあげましょう」

といいました。

海蔵さんは喜びました。あの様子では、もうあの老人は、あと二、三日で死ぬに違いない。そうすれば、あの息子があとをついで、井戸を掘らせてくれる、これはうまいと思いました。

その夜、夕飯のとき、海蔵さんは年とつたお母さんに、こう話しました。

「あのがんこの親父が死ねば、息子が井戸を掘らせてくれるそうだから。だが、ありや、もう二、三日で死ぬからええて」すると、お母さんはいいました。

「お前は、じぶんの仕事のことばかり考えていて、悪い心になつただな。人の死ぬのを待ちのぞんでいるのは悪いことだぞや」

海蔵さんは、とむねをつかれたような気がしました。お母さんのいうとおりだったのです。

次の朝早く、海蔵さんは、また地主の家へ出かけていきました。門をはいると、昨日より力のない、ひきつるようなしゃっくりの声が聞えて来ました。だいぶ地主の体が弱つたことがわかりました。

「あんたは、また来ましたね。親父はまだ生きていますよ」

と、出て来た息子さんがいいました。

「いえ、わしは、親父さんが生きておいでのうちに、ぜひおあいしたいので」3と、海蔵さんはいいました。

老人はやつて寝ていました。海蔵さんは枕もとに両手をついて、

「わしは、あやまりに参りました。昨日、わしはここから帰るとき、息子さんから、あなたが死ねば息子さんが井戸を許してくれるときいて、悪い心になりました。もうじき、あなたが死ぬからいいなどと、恐ろしいことを平気で思っていました。つまり、わしはじぶんの井戸のことばかり考えて、あなたの死ぬことを待ちねがうというような、□にもひとしい心になりました。そこで、わしは、あやまりに参りました。井戸のことは、もうお願いしません。またどこか、ほかの場所をさがすします。ですから、あなたはどうぞ、死なないで下さい」。

と、いいました。

老人は黙つてきいていました。それから長いあいだ黙つて海蔵さんの顔を見上げていました。

「お前さんは、感心なおひとじや」

と、老人はやつと口を切つていいました。

「お前さんは、心のええおひとじや、わしは長い生涯じぶんの欲ばかりで、ひとのことなどちつとも思わずに生きて来たが、いまはじめてお前さんのりっぱな心にうごかされた。お前さんのような人は、いまどき珍らしい。それじゃ、あそこへ井戸を掘らしてあげよう。どんな井戸でも掘りなさい。もし掘つて水が出なかつたら、どこにでもお前さんの好きなどころに掘らしてあげよう。あのへんは、みな、わしの土地だから。うん、そうして、井戸を掘る費用がたりなかつたら、いくらでもわしが出してあげよう。わしは明日にも死ぬかも知れんから、このことを遺言しておいてあげよう」

海蔵さんは、④ 思いがけない言葉をきいて、返事のしようもありませんでした。だが、死ぬまえに、この一人の欲ばりの老人が、よい心になつたのは、海蔵さんにもうれしいことでありました。

いんたのむねから打ちあげられて、少しくもった空で花火がはじけたのは、春も末に近いころの昼でした。

村の方から行列が、いんたのむねを下りて来ました。行列の先頭には黒い服、黒と黄の帽子をかむつた兵士が一人いました。それが海蔵さんでありました。

いんたのむねを下りたところに、かたがわには椿の木がありました。今花は散つて、浅緑の柔かい若葉になっていました。もういっぽうには、崖

をすこしえぐりつつ、そこに新しい井戸ができていました。

そこまで来ると、行列がとまってしまいました。先頭の高蔵さんがとまったからです。

学校かえりの小さい子供が二人、井戸から水を汲んで、のどをならしながら、美しい水をのんでいました。高蔵さんは、それをにこにこしながら見ていました。

「おれも、いつばいのんで行こうか」

子供たちがすむと、高蔵さんはそういつて、井戸のところへ行きました。

中をのぞくと、新しい井戸に、新しい清水がゆたかに湧いていました。ちょうど、そのように、高蔵さんの心の中にも、よろこびが湧いていました。

高蔵さんは、汲んでうまそうにのみました。

「わしはもう、思いのこすことはないがや。こんな小さな仕事だが、人のためになることができたからのオ」

と、高蔵さんは誰でも、とつかまえていたい気持ちでした。しかし、そんなことはいわないで、ただにこにこしながら、町の方へ坂をのぼって行きました。

(新美南吉『牛をつないだ椿の木』)

※しんたのむね……地名。

※喜捨……困っている人や寺社に施しをすること。

※しりはしより……着物の裾を帯にはさみ、動きやすくした着方。

問一 線「懐」とありますが、次の[A]、[C]の「懐」を用いた慣用句の意味を、それぞれ後のア、イ、ウの中から選び、記号で答えなさい。

- [A] 懐が深い [B] 懐刀 [C] 懐が暖かい

ア 最も頼みとする部下のこと。

イ 所持金がたくさんあること。

ウ 大切に育てられた子。

エ 自分から働かないこと。

オ 相手に気に入られること。

カ 心が広くて包容力があること。

問二 1 3 に入ることをばとして、最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア いよいよ イ いずれ ウ ちかちか エ さんざん オ やがて カ そろそろ

問三 線とありますが、「やつれる」とは本文中ではどのような意味として使われていますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ふきげんになる イ みすばらしくなる ウ やせ衰える エ あきれはてる

問四 線①「志のある」とありますが、ここではどのような意味ですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 地主の老人から土地を買うために、高蔵に費用を寄付すること。

イ しんたのむねを通る人々のために、井戸を掘る仕事を手伝うこと。

ウ 椿の木のそばを通る人のために、旅の安全を祈る地蔵堂を作ること。

エ 高蔵の考えに賛同し、椿の木の近くに井戸を掘る資金を寄付すること。

問五 線②「これはうまいと思いました」とありますが、この時の心情の説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 老人の死によってその息子へと世代が交代し、新しい時代がはじまることに期待している。

イ 老人が死んでしまうことによって、自身の長年の希望がかなえられそうなることを喜んでいる。

ウ 老人には認められなかったが、自身の仕事を応援してくれる人物が現れたことを感謝している。

エ 高蔵は長年老人に虐げられてきたが、彼の死が近いことを知り全てを許す気持ちになっている。

問六——線③「ぜひおあいしたい」とありますが、この時の海蔵の心情として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 自分の仕事のことを考えるあまり、いつしか人の死を願うようになっていたことを告白して謝罪したい。
イ 井戸を掘る事が何よりも大切だと考えてきたが、人の命には代えようもないと気づいたことを報告したい。
ウ 老人の息子から許可を得ようと考えていたが、老人が死んでしまう前に直接許可をいただきたい。
エ 仕事の妨げになる老人を憎んでいたが、彼の死が近いことを知り、最後に直接お別れを言いたい。

問七 に入ることばとして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 神　イ 蛇　ウ 猿　エ 鬼

問八——線④「思いがけない言葉をきいて、返事のしようもありませんでした」とありますが、老人の言葉のどのような点が思いがけなかったのですか。三十五字以上、五十字以内で説明しなさい。

問九——線⑤「よい心」とはどのような心ですか。本文中の言葉を用いて二十五字以内で答えなさい。

問十——線⑥「新しい清水がゆたかに湧いていました」とありますが、これはどのようなことを表現していますか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 美しい自然の情景を描くことで、自己を犠牲にして人々に尽くす美しい精神を強調している。

イ 新しい水が湧き出てくることを描き、より多くの善行を積みたいという希望を表している。

ウ 美しい水が尽きることなく湧き出てくることを描き、海蔵のおさえきれない喜びを表現している。

エ 新しい水が湧き出ることを描き、母の言葉によつて改心した海蔵のさわやかな心を表現している。

問十一 本文について説明したものととして、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 善良な心を持った人間の行動が、強欲な人間の心を動かしたことが描かれている。

イ 無欲に見えた人間が実際は欲にまみれていたことを示し、人間の罪深さが描かれている。

ウ 強い決意を持った人間が、生涯をかけて成し遂げた偉大な事業について描かれている。

エ 死後の評価を意識するあまり、それまでの信条を捨ててしまう人間のおろかさが描かれている。

【二】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

みなさんの家では新聞を取っていますか？ 取っていない家庭が多いと思います。今はインターネットが1^①しているので、わざわざ新聞を取らなくても、ネットで無料の情報が好きなだけ検索できるようになっています。

「新聞なんて、必要なの？」そんな声も聞こえてきそうですね。（A）新聞はやはり必要だと私は思います。ネットにメリットがあるように、新聞にもメリットがあるんです。

そのメリットは何かというと、ひとつにはネットの画面で見ると、紙に印刷された文字で読むほうが記憶が定着することです。^②

ネットの情報はどうしても画面をサーッと流してしまいがちです。感覚的に文字が頭に引つかからないので、記憶にあまり残らない。サーッと読めちゃうのが、ネットの良いところでもあるのですが、記憶に定着するかという点で見たら、紙に印刷されたもののほうが、圧倒的に有効なのではないでしょうか。

なぜかという、紙に印刷されたものは、文章が書いてあった場所や形を記憶にとどめやすいからです。

みなさんも新聞の紙面を思いだしてみてください。見出しの位置や大きさがみな違いますし、記事が縦長だったり、横長だったり、レイアウトがいろいろですね。みな違うので、記憶にひっかかるフックがたくさんあるのです。^③

教科書もそうですね。私は世界史や日本史を勉強するとき、「あの話は教科書の右上に書いてあった」「あの項目は左すみにあった」など、場所や位置で記憶していました。

でももしこれらの事項がバラバラにタブレットの画面に出てきたら、ものすごく記憶しづらかったと思います。ネットの場合、全部が横書きの同じパターンで出てくるので、メリハリがなく、記憶に残りにくいのです。^④

たとえば、新聞の面は住宅地で、そこに掲載されている記事は家のようなものです。新聞の場合はいろいろな形の家がさまざまなレイアウトで存在しているので、和風テイストのあの家とか、赤い屋根の洋館のあの家などと、ひとつひとつが記憶しやすい。

一方、ネットの記事は整理されているので、同じ形の家がずっと続いていくような感じです。（B）人工的な街なみなので、どの家をとっても記憶しづらいのです。

新聞のほうがいかなる記事も、航空図のように一覧できる良さがあります。

この「一覧性」が新聞のメリットです。ぱっと開いたときに全体を見通しやすいので、ざっと見出しを見て、その中でセレクトして記事を読むことができます。

ネットは順番に流して見ていくことしかできませんから、新聞のような一覧性はないわけです。

もちろんネットにも良い点があります。記事を検索することにかけてはネットの右に出るものはありません。過去の記事の検索はネットなら一発でできます。関連する記事をまとめて読むこともできます。

これが新聞だと、図書館まで行つて、2 ② 他の新聞を調べたり、過去の縮刷版を広げなければいけません。その手間たるや、考えただけで気が遠くなります。ネットがない時代は、一日中、図書館にこもってそんなこともしていたわけです。

そう考えるとネットの便利さははかりしれません。でもだからといって、ネットだけで事足りるわけではないと私は思います。印刷された新聞ならではの良さがある。それを忘れてはいけないと私は思います。

（齋藤孝『新聞力 できる人はこう読んでいる』）

※レイアウト……配置

※セレクト……選択

問一 1 にあてはまることばとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 拡散 イ 繁栄 ウ 普及 エ 伝染

問二 (A)・(B) に入ることばとして最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号はくり返し使えません。

ア あるいは イ つまり ウ もし エ でも オ だから

問三 ~~~~~ 線「赤い屋根の洋館」の「の」と同じ用法のものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 私の家は駅から徒歩五分です。

イ その本は私のです。

ウ どうしてそこに立っているの。

エ 私の作った料理です。

問四 2 にあてはまることばとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア すらすら イ のそのそ ウ しばしば エ いちいち

問五 ~~~~~ 線「はかりしれません」とありますが、「はかりしれない」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 見当がつかない イ 理解ができない ウ 心当たりがない エ 言葉にならない

問六 ~~~~~ 線①「ネットにメリットがある」とありますが、ネットのメリットとはどのようなことですか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア タブレットを持ち運ぶことによつて、昼夜場所を問わず情報を検索することができること。

イ 情報を検索するための時間を要さず、また関連した記事をまとめて読むことができること。

ウ 情報を順番に流して読むことによつて、膨大な情報を即座に記憶することができること。

エ 図書館で調べるよりも、ネットで検索するほうが、正確な情報を得ることができること。

問七 ~~~~~ 線②「紙に印刷された文字で読むほうが記憶が定着する」とありますが、この理由を説明した部分を本文中から二十五字でぬき出し、最初の五字を答えなさい。

問八 ~~~~~ 線③「記憶にひかかるフックがたくさんある」とありますが、このような新聞の特色を説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 情報を記憶しやすくするために、新聞も教科書と同じく文字や写真を掲載している。

イ 情報を記憶しやすくするために、新聞でしか得られない独自の情報を提供している。

ウ 情報を記憶しやすくするために、保存性の優れた紙素材を用いて情報を伝達している。

エ 情報を記憶しやすくするために、紙面に掲載する記事の配置や形を多種多様にしている。

問九 ~~~~~ 線④「たとえていえば」とありますが、この表現とこれに続く文章の働きとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 航空図や家など現実味のあるものに新聞記事をとえることで、正しい情報収集の方法を読者に示している。

イ 人為的につくられた街なみに新聞記事をたとえることで、ネットの情報の正確さを読者に示している。

ウ 身近に存在して実感しやすい家に新聞記事をたとえることで、新聞のメリットを読者に示している。

エ 和風テイストの家や同じ形の家に新聞記事をたとえることで、新聞とネットの違いを読者に示している。

問十 ——— 線⑤「それを忘れてはいけないと私は思います」とありますが、これについて説明した次の文章の「あ」「う」に入る最も適当なことばを、それぞれ解答用紙の字数で本文中からぬき出して答えなさい。

情報を得る手段として、新聞を利用する家庭は少なくなっており、インターネットを利用する家庭が増えている。しかし、ネットは画面を流して読むため、文字が「あ」に記憶されないといった欠点がある。それに比べて新聞は、紙面を「い」することで全体を見渡し、必要な情報を得ることができるため、頭の中に記憶を定着させることができる。ここにおいて、新聞が「う」であることを忘れてはならないと筆者は述べている。

【三】次の各問いに答えなさい。

問一 次の——線の漢字の読みをそれぞれひらがなで答えなさい。

- ① 美しい色に染める。
- ② 会社には二十年勤続している。
- ③ 糖質を制限した食事をする。
- ④ 別冊がついている雑誌を買った。
- ⑤ 代わりの役者を急いで探す。

問二 次の——線のカタカナをそれぞれ漢字に改め、正確に書きなさい。

- ① 彼の考えとはタイキョクにある考えだ。
- ② 事をうまくハコばなければならない。
- ③ せつかくの努力もトロウになった。
- ④ 仕事のノウリツを上げる。
- ⑤ 休職してイクジに専念する。

問三 次の——線のカタカナを漢字に改めたとき、その漢字の部首をそれぞれ後のア～コの中から選び、記号で答えなさい。

- ① よいシュウカンを身につける。 ② タツイの文章を心がける。 ③ 彼とはキュウチの仲だ。
- ア ひ イ にんべん ウ くち エ たてぼう オ つち
- カ りっしんべん キ ひつじ ク くちへん ケ しんによウ コ えんによウ

問四 次の①・②の——線の対義語として最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 古代の伝説について調べる。 ア 物語 イ 序説 ウ 史実 エ 実体
- ② 試合は延長戦になった。 ア 外延 イ 短縮 ウ 助長 エ 拡張

問五 次の①・②の——線の類義語として最も適当なものをそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ① 陶芸のこつを会得する。 ア 理解 イ 会釈 ウ 解説 エ 集会
- ② 気分のすぐれない人を介抱した。 ア 愛護 イ 介入 ウ 抱負 エ 看護

句読点はすべて字数にふくみます。

[illegible]

合 計	8	7	6	5	4	3	2	1